



# 新毎日

6月1日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1  
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



## WOTAが目指す未来の水

地球は「水球」と呼ばれる。しかし、世界では水害や水不足、水をめぐる戦争などさまざまな水問題が起きていく。このまま水を使い続けていくと、世界の40%の人が水不足になると言われている。また、水が豊かであると言われている日本に目を向けると、世界一の水輸入国となっている。外国に頼る我が国は、外国で水不足が起きた時に水の確保が難しくなる。このような地球が抱える深刻な水問題に前田瑤介氏らが設立した「WOTA」が挑む。

(大内紘太)

### 心がけていること

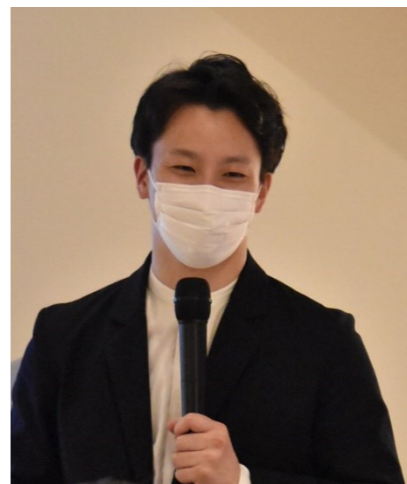
前田さんは徳島県生まれの29歳。WOTAを設立してから今まで、心がけてきたことは二つあるという。一つ目は自分がやりたいことをやることだ。それを行うことで自分の得意を伸ばしてきたという。二つ目は自分の苦手を受け入れて賛成も反対もすべて聞いて生かしていくことだ。反対の意見は、そういう視点もあるのだと自分のこれからに生かすことが大事だそう。若くして会社の代表と

### 水を自分事へ

2030年には世界の40%の人が水不足になることをご存知だろうか。これは21世紀最大の課題の一つだ。今、需要の急増、気候変動により供給が追いつかない状態が多発している。水再生の重要性が増大しているのだ。そこで、WOTAは小規模分散型水循環シ

ステムで水問題を解決しようとしている。建設に時間とコストがかかる上下水道をなくし、各家庭で水を再利用できるようにした。2人分の水で100人がシャワーを浴びられる98%リサイクルを実現させたのだ。WOTAはもっと水を身近な存在にする事を目標にしている。

(宮里紅々)



### WOTA設立まで

前田さんは中学生の頃、地球の環境問題を知り、あるアメリカ人と出会った。そこで、環境問題に携わる事で世界中の人と繋がれると感じたそう。そして、WOTAを作る大きなきっかけとなったのは、上京した翌日に起こった東日本大

震災だ。徳島県の山間部で育ち、湧き水をポンプでくみ上げて生活用水として暮らしてきた前田さんは、災害で水が止まった原因が分からないことに違和感を抱いたそう。それをきっかけに前田さんは水問題を解決しようと決意。2014年に設立されたWOTAの代表に、20年に就任した。

(荒井六花)

### 水問題、解決へ

WOTAは今後、開発中の小規模分散型システムを普及させていこうとしている。世界の水不足が顕著な地域をはじめ、国内でも過疎地域や島嶼地域などに広めることは、世界の水問題解決に向けた大きな前進となる。けれど水問題を解決するには、私達一人一人が水に対する向き合い方を変えるべきだと感じた。例えば節水だ。少しでも水を無駄にしないという意識がこれからの水問題解決への糸口になると思った。

(岡本彩弥子)

### 画期的な技術

WOTAが開発した製品、WOTA BOXは画期的な技術が使われている。200ワット(ドライヤーの約4分の1)の電力しか消費しないため、節電という面から見ても環境に優しい。2016年の熊本地震をはじめ、被災地の避難所で使用されており、今後の活用も大いに期待されている。そして今は「各家庭に1台」を目標に、機械のさらなるコンパクト化などを目指し研究を進めている。

(鶴岡小百合)

